

# 日本食文化 ブラジルに紹介

静岡文化芸術大生



静岡文化芸術大(浜松市中区)は18日、外務省がブラジル・サンパウロ市に設置する日本文化発信拠点「ジャパン・ハウス・サンパウロ(JHS)」と連携し、学生7人が昨年9月からオンラインで取り組んできたインターンシップの成果発表会を同大で開いた。

## ふるさと給食など解説

JHSとオンラインでつなぎ、関係者ら約60人が発表に耳を傾けた。JHSが本年度、学生に提示した課題は「ガストロノミー(食文化)」。学生は浜松市や焼津市、神奈川県へ調査に出掛け、研究成果をまとめた。

学生は日本の食文化を「健康食」「保存食」などのテーマに分けて発表した。かつお節の作り方を写真や動画で説明したほか、浜松市内の小学校では地元食

日本の食文化について発表した学生ら―浜松市中区の静岡文化芸術大

材を使った「ふるさと給食」が出されていることも紹介した。

リーダーの国際文化学科3年高橋菜緒さんは「日本の食文化の魅力を伝えられたと思う」と語り、エリック・クルックJHS館長は「日本の給食文化など、とても興味深かった」と学生をたたえた。インターンシップは2019年に学生がJHSを訪問する形で開始。昨年度からはコロナ禍に伴い、オンラインで実施している。(浜松総局・日比野都美)